

# 大崎市 議会 だより



第62号  
令和2年3月1日発行

- 臨時会……………2～3
- 定例会……………4～5
- 一般質問……………6～14
- 委員会報告……………16～19

今回の定例会は



活発に発言する高校生の皆さん  
高校生との議会報告・意見交換会にて

# — 第4回 臨時会のトピックス —

## 災害対応補正予算

### トピックス① 河川対応 経費

5億6千万円

#### 主な災害復旧箇所

- ・準用河川 山王川（田尻地域）
- ・準用河川 中雨生沢川（古川地域）
- ・普通河川 旧渋川（古川地域）
- ・普通河川 新堀川（三本木地域）



### トピックス② 住宅支援 経費

7千万円

#### 生活再建に向けた住まいの支援制度

- ・住宅及び宅地復旧事業
- ・住宅改良改築事業（基礎のかさ上げ・敷地の盛土）
- ・住宅の応急処理

### トピックス③ 稲わら 処理経費

13億5千万円

#### 災害廃棄物処理経費

- ・大崎市建親会への稲わら処理委託
- ・稲わら保管費用
- ・消毒費用 他



### 第4回臨時会 緊急質問

台風19号の対応について、市議会では災害対策連絡会で対応を決定し、常任委員会単位での調査を行い、調査結果を基に氷室副議長が代表し、市長へ緊急質問を行いました。

### 住 宅 再 建

**問** 被災された方への住まい確保及び、被災住宅の再建支援について伺う。

**答** 住まい確保は、被災後速やかに市営住宅の空き物件の確認、改修、民間賃貸住宅の家賃助成、並びに災害救助法にある借り上げ型の応急仮設住宅の情報提供を行ってきた。

被災住宅の再建支援は、被災者生活再建支援法による支援は基より、該当しない方にも、市では条例により見舞金の支給を行い支援している。支援法について



氷室副議長による緊急質問

は、宮城県及び国に対しても制度の見直しについて要望していく。

**災害発生時の職員体制**

**問** 発災初期の職員体制、特に被災地では総合支所の職員数が限られている事から、職員がそれぞれの出身地域で活動出来る対応が必要と思うが、職員体制について伺う。併せて、姉妹都市等からの職員派遣について伺う。

**答** 発災初期の職員配置については、職員の出身地域で活動できる対応を含め、今回の経験を生かした初動体制を今後検討していく。姉妹都市等からは、延べ約400名の職員の派遣を頂いた。

**農業被害対策**

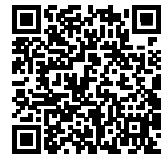
**問** 流出稲わら処理問題について伺う。

**答** 各地域の土地改良区に協力頂き、堆積した稲わらの状況図を作成し、大崎市建親会へ処理を委託し進めている。再利用が可能な稲わらについては、セメント会社等で資材としての活用や焼却処分を進める。焼却処分については、広域処理を進められる様、国・県に要請していく。

臨時会 議案審議（こんな事を議論しました）

**令和元年 第4回臨時会** (11月27日・29日)

今臨時会には、市長提出の令和元年度大崎市一般会計補正予算をはじめとする予算案5件、条例1件、その他8件が提出され、全ての議案は原案のとおり可決されました。



件名			審議結果
専決処分	報告第25号	交通事故に係る和解及び損害賠償の額を定めることについて	—
	報告第26号	公の営造物の管理の瑕疵に係る和解及び損害賠償の額を定めることについて	—
	報告第27号	特定事業契約の変更契約の締結について	—
	報告第28号 ～同第29号	工事請負契約の変更契約の締結について	—
同意承認案	議案第98号	令和元年度大崎市一般会計補正予算（第4号）	原案承認
	議案第99号	令和元年度大崎市下水道事業特別会計補正予算（第3号）	原案承認
	議案第100号	令和元年度大崎市浄化槽事業特別会計補正予算（第1号）	原案承認
補正予算	議案第101号	令和元年度大崎市一般会計補正予算（第5号）	原案可決
	議案第102号	令和元年度大崎市夜間急患センター事業特別会計補正予算（第1号）	原案可決
	議案第103号	令和元年度大崎市下水道事業特別会計補正予算（第4号）	原案可決
	議案第104号	令和元年度大崎市農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）	原案可決
	議案第105号	令和元年度大崎市浄化槽事業特別会計補正予算（第2号）	原案可決
条例	議案第106号	大崎市一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例	原案可決

# 第4回 本定例会のトピックス

トピックス1  
人気  
温泉施設

## 指定管理者の指定

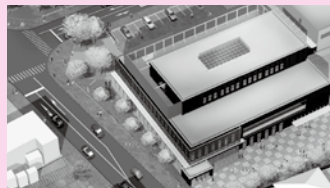
### 大崎市中山平温泉交流館

<主な論点>  
・収益性の高い指定管理施設について  
の考え方



トピックス2  
古川七日町

## 地域交流センターを18億2千200万円で取得



### 中央公民館機能に移設。

<主な内容>  
・整備計画と実際の整備費用の比較  
・取得金額の妥当性  
・財源内訳

トピックス3  
国・県から  
補助金減額

## 道路修繕・整備

<主な論点>  
・補助金減額の理由  
・補助金減額による道路修繕・整備進捗への影響

## 意見が分かれた議案の賛否一覧

議案第132号 災害復旧事業にかかる消費税の課税免除を求める意見書

議員名	議決結果	早坂 憂	伊勢 健一	鹿野 良太	山口 文博	山口 壽	佐藤仁一郎	八木 吉夫	佐藤 講英	佐藤 弘樹	中鉢和二郎	相澤 久義	鎌内つぎ子	木村 和彦	加藤 善市	横山 悦子	関 武徳	遊佐 辰雄	只野 直悦	相澤 孝弘	富田 文志	山田 和明	後藤 錦信	氏家 善男	山村 康治	木内 知子	小沢 和悦	佐藤 勝	水室 勝好	佐藤 和好	
議案第132号	否	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	議	欠

「可」→可決、「否」→否決、「○」→賛成、「×」→反対、「欠」→欠席、「議」→議長

件名		審議結果
請願	請願第3号 松山公民館へのエレベーター設置に関する請願	継続審査
請願	請願第4号 高齢難聴者の補聴器購入への助成に関する請願	継続審査

## 議会の主な動き

- 11月
  - 13日 民生常任委員会
  - 14日 産業常任委員会(調査視察)
  - 15日 総務常任委員会(調査視察)
  - 15日 議員定数・報酬等調査検討特別委員会
  - 18日 災害対策連絡会幹事会
  - 18日 建設常任委員会(調査視察)
  - 18日 市役所庁舎建設調査特別委員会
  - 20日 議会運営委員会
  - 22日 産業常任委員会(調査視察)
  - 25日 総務常任委員会・産業常任委員会
  - 26日 建設常任委員会
  - 27日 総務常任委員会・民生常任委員会
  - 29日 災害対策連絡会・議員全員協議会
  - 29日 議会(第4回臨時会)
  - 29日 総務常任委員会・本会議・会派代表者会議
- 12月
  - 3日 議会運営委員会
  - 5日 産業常任委員会(調査視察)
  - 6日 議員全員協議会・本会議(第4回定例会)
  - 6日 総務常任委員会・民生常任委員会
  - 6日 情報化対策特別委員会
  - 10日 本会議
  - 11日 本会議・総務常任委員会
  - 12日 本会議・産業常任委員会
  - 13日 議員定数・報酬等調査検討特別委員会
  - 16日 本会議・議会運営委員会
  - 17日 本会議・民生常任委員会
  - 18日 災害対策連絡会幹事会
  - 19日 市役所庁舎建設調査特別委員会
  - 20日 本会議・災害対策連絡会
  - 24日 本会議
  - 24日 議会運営委員会・議員全員協議会
  - 25日 民生常任委員会
  - 25日 高校生との議会報告・意見交換会
  - 26日 総務常任委員会

議案審議(こんな事を議論しました)

# 令和元年 第4回定例会 (12月6日~12月20日)

今定例会には、市長提出の令和元年度大崎市一般会計補正予算をはじめとする予算案5件、条例案2件、その他14件及び、議員提出議案5件が提出されました。

このうち、議案第132号は賛成少数で否決となりました。その他の議案は原案のとおり可決されました。



議案審議 (こんな事を議論しました)

件名		審議結果
補正予算	議案第107号 令和元年度大崎市一般会計補正予算 (第6号)	原案可決
	議案第108号 令和元年度大崎市国民健康保険特別会計補正予算 (第2号)	原案可決
	議案第109号 令和元年度大崎市介護保険特別会計補正予算 (第3号)	原案可決
	議案第110号 令和元年度大崎市下水道事業特別会計補正予算 (第5号)	原案可決
	議案第127号 令和元年度大崎市一般会計補正予算 (第7号)	原案可決
条例	議案第111号 成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係条例の整備に関する条例	原案可決
	議案第112号 大崎市特別職の職員で非常勤のものものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
その他	議案第113号 財産の無償譲渡について	原案可決
	議案第114号 ~同第116号 財産の取得について	原案可決
	議案第117号 損害賠償の額を定めることについて	原案可決
	議案第118号 ~同第125号 指定管理者の指定について	原案可決
	議案第126号 字の区域を新たに画することについて	原案可決
	議案第128号 県立高校及び特別支援学校にエアコン設置を求める意見書	原案可決
意見書	議案第129号 免税軽油制度の継続を求める意見書	原案可決
	議案第130号 義務教育費国庫負担制度2分の1復元、30人以下学級実現に係る意見書	原案可決
	議案第131号 「30人以下学級の早期・完全実現」のための意見書	原案可決
	議案第132号 災害復旧事業にかかる消費税の課税免除を求める意見書	否決

3月	2月	1月
28日 予算特別委員会 27日 予算特別委員会 26日 予算特別委員会 25日 予算特別委員会 19日 本会議 18日 本会議 14日 議員全員協議会・本会議(第1回定例会) 10日 産業常任委員会(調査視察) 7日 議会運営委員会 6日 議員定数・報酬等調査検討特別委員会 5日 産業常任委員会(調査視察)	31日 民生常任委員会・産業常任委員会 29日 総務常任委員会 28日 総務常任委員会・建設常任委員会 27日 情報化対策特別委員会 22日 民生常任委員会(行政視察) 22日 産業常任委員会(行政視察) 22日 建設常任委員会(行政視察)	20日 総務常任委員会(行政視察) 20日 総務常任委員会(行政視察) 15日 高校生との議会報告・意見交換会 14日 議員研修会 10日 産業常任委員会 9日 議員定数・報酬等調査検討特別委員会



一般質問（市長に聞きました）

令和元年第4回大崎市議会定例会は、12月6日に招集され、12月20日までの15日間の日程で行われました。

市政に対する一般質問は、12月12日、16日、17日、19日、20日（5日間）の日程で、25人が市長の見解を質しました。要旨は次のとおりです。



後藤 錦信

### 児童生徒の 危機管理体制の構築

**問** 大崎市教育環境整備指針において、園児及び児童生徒の危機管理体制の構築が示されている。

その中の課題として、危機管理対策設備の充実があり、子ども達にとって安全・安心な教育施設を提供するために、特に防犯カメラの整備計画について伺う。

**答** 防犯カメラは、不審者等への抑止や、一定の効果があると認識している。データ管理や運用方法、財政面の課題等から、現段階で学校等には設置していない。

なお、市内小中学校への意向調査の結果、159台の設置希望があった。

設置については、今後、大崎市監視カメラ等の設置及び運用に関する要綱に基づきながら、教育委員会と防災安全課で連携して協議検討を進めていく。

#### 掲載以外の質問事項

- ・人口減少時代の教育環境整備
- ・学校統廃合後の施設有効活用
- ・高校卒業生をおおさき宝大使に



小沢 和悦

### 市長の政治姿勢

**問** 市長の政府主催行事への参加は、何らかの判断基準があるのか。

**答** 住民の福祉増進に役立つかどうかを基準に判断している。閣僚などとも会える事も大事な事である。

### 「桜を見る会」への参加は

**問** 今、大問題になっている安倍首相主催の桜を見る会への招待と、参加したかどうかを伺う。

**答** 平成30年度は土地改良関係で農林水産省卒の招待があり参加した。以前、宮城県議会時代にも一回招待され参加したが、その時代に比べ、かなり多い参加者に驚いた。

**問** 首相や与党卒の後援会員が参加者の多くを占め、社会的に問題となっている人物を招待しているなど、国民の批判も多いが、市長はどう思うか。

**答** 趣旨に沿ったように改革されるべきと思う。



関 武徳

**台風19号被災と  
今後の防災向上の考え**

**問** 台風19号の市内被災箇所を検証、常襲冠水エリア排水路整備の効果と課題、消防団の排水作業の装備見直しの必要、ハザードマップ活用の課題、避難所機能拡充への考えを伺う。

**答** 台風19号は、大川川の決壊や越水、溢水により冠水・浸水被害が発生した。大雨により、稲わらや流下ごみと相まって浸水被害を大きくした。この流下阻害箇所を地域の方々と検証し、排水機場の機能強化、阻害箇所の改修、土砂堆積箇所の改修などを行う。消防団への排水能力の高いポンプの装備は、消防団への負担過重を避ける上で、現在考えていない。ハザードマップは、最新のデータを盛り込んだマップを製作中で、年度内に全世帯に配布し、今回の災害から学ぶべき事も含め、マップ活用の講習会を開催する。避難所については、プライベートスペース確保のパーティションや高齢や足腰が弱い方が利用する段ボールベッドは備蓄していなかった。年次計画で整備する。



相澤 久義

**都市計画と都市計画税**

**問** 旧三本木町の都市計画は、昭和50年、旧古川市と一体で計画された。合併後は、古川地域の計画は進んでいるが、三本木地域の計画はほとんど進んでいない。用途地域の開発計画を伺う。

**答** 三本木地域の都市計画道路6路線のうち、2路線が完了した。残り4路線は一部区間または全区間が未改良で、今後、新たな道路計画を策定する。

住居専用地域の町東地区の開発は、地権者をはじめとする地域住民の、まちづくりに対する機運の高まりに応じ支援する。

**問** 三本木地域の都市計画税の年額、課税開始年、充当先について伺う。

**答** 額は約7千万円で、昭和61年から課税しており、下水道事業の償還に充当している。

**問** 都市計画税のない松山、鳴子温泉、田尻地域では、下水道が整備され、税の不公平を感じる。廃止すべきではないか。

**答** ご理解を頂きたい。



遊佐 辰雄

**内川・蛭沢川の  
災害復旧見通し**

**問** 台風19号で被害を受けた内川沿いの柵と水門の復旧見通し並びに、内川及び蛭沢川背後地の急傾斜土砂崩れ防止対策工事を、急ぐべきではないか。

**答** 内川の柵は復旧中で、安全確保が出来次第、通行止めを解除する。駐車場向かいの斜面は、保安林なので県が林野庁に災害関連緊急治山事業を申請し、11月に事業採択された。旧有備館向かいの斜面は、一部文化財指定を受けているので、今後、関係機関と協議していく。蛭沢川は、今後、維持管理として出来ることから作業を実施すると県から回答があった。

**未給水地域への上水道整備を**

**問** 鬼首地区の未給水区域に、上水道を計画的に整備していくべきではないか。

**答** 上水道整備ではなく、簡易給水施設等設置事業補助金制度を利用し、実態に合った飲料水確保策を進めていきたい。

**問** 補助金の引き上げはできないか。

**答** 今後、補助額の妥当性は検証したい。



佐藤 勝

市地方創生戦略に  
農業遺産保全計画を

**問**（仮称）世界農業遺産基金の創設と、第1回全国サミットの大崎市開催は。

**答** 基金は、提案内容を議論してみたい。全国サミットも、議論を深めたい。

**問** 国立の環境国際大学やジャパンアグリカレッジを設立できないか。

**答** 次世代に生かす人材育成が国際的に求められており、世界農業遺産登録となった大崎地域は、教育拠点、研修のフィールドとして最適と考えるが所見を伺う。

**問** 現在、県が次期の総合計画を策定中なので、県人材育成計画の議論で、県北地区の役割を含めて考えてもらう様、県に働きかけてみたい。

**問** 産業推進のため、産業全体のコーディネーターを置くべきと考えるがどうか。

**答** 大崎全体を大いに育て伸ばして頂ける有為な人材がいれば、お願いしたい。

**問** これから目指す4つ目となる道の駅のコンセプトは何か。

**答** 現道の駅の検証と新たな道の駅的拠点施設の在り方や役割を研究してみたい。



山口 文博

台風19号の  
水害対応と復興支援

**問** 吉田川の決壊で、鹿島台志田谷地区において甚大な浸水被害が発生した。そこで、住宅の復旧までの仮住まいとして建設型応急仮設住宅を建設すべきだったと考えるが、しなかつた理由を伺う。

**答** 仮設住宅建設には、建設地の検討や建設に相当の期間を要するなど課題があり、冬を前にして可及的速やかに仮住まいを確保することが必要と考え、総合的判断から借上げ型を選択した。

**問** 被災住家の浸水深によって、公的支援金支給額や義援金配分額に格差が出ている。そこで、罹災判定と生活再建支援制度の見直しについて所見を伺う。

**答** 地震と異なる風水害被害への支援について、これまでも制度の見直しを求めてきたが残念ながらなされていない。今後も、市長会として、国や県に現場の声が反映される様に粘り強く要望していく。

掲載以外の質問項目

- ・ 浸水住宅地の高台移転と復興
- ・ 被災農業者・農業法人への支援



伊勢 健一

公共空間としての  
公園の在り方

**問** 公共空間として、子育て世代が望む公園の在り方について伺う。

**答** 子育て世代の方々から遊具のある公園の整備が望まれている。現在策定中の遊具更新計画に基づき順次更新を行う事で、子ども達が楽しく遊べる公園の整備を進めていく。望まれる公園とするため、荒雄公園などでは季節ごとに花の植栽を行っており、他の公園でも地域の協力を得て、来て良かったと思える様な美しい公園づくりを進めていく。

公立小中学校における教科書採択

**問** 公立小中学校における教科書採択の仕方について伺う。

**答** 原則的に4年ごとに採択替えを行っている。近隣の2市4町で構成される北部地区教科用図書採択協議会を設置し、共同採択を行っている。最終的に、各教育委員会希望や専門委員会からの調査報告などを参考にし、使用する教科書を決定している。





只野 直悦

認知症の診療体制

**問** 外部評価検討会議の意見を踏まえた認知症医療を、本院が中心となり行う構想とは。

**答** 認知症診療は、市全体の課題であり、どの地域においても同様のケアが受けられる様に体制整備を行う。令和2年4月から、本院に認知症センターを設置し、鑑別診断や専門医療相談を行い、各分院にサポート医を配置して、県認定の認知症医療センターとも連携していく考えである。

**問** 医療、福祉、介護の連携を重視して行ってきた田尻診療所の実績を活かして市全体に広げるべきであり、現場に丁寧な説明があつて当然と思うがどうか。

**答** 内部組織でプロセスなどを積み上げ、大学病院と相談し、令和元年10月の経営会議で最終決定した。早急に進めたい。

**問** このまま進む計画をとっても心配するが、市長の考えを伺う。

**答** 市民理解の上で行うことが重要と認識している。



木村 和彦

指定管理制度の見直し

**問** 指定管理の更新に際して、指定管理施設の効率的な運用を図るため、隣接する施設の複合委託や指定管理料の見直しなどの制度設計をすべきと考えるがどうか。また、利益が想定を大きく上回る場合、利益の留保や処分について十分に検討すべきと思うが考えを伺う。

**答** 指定管理者の選考基準は、指定管理者制度運用指針に基づいて募集と選定を行っている。複数の施設が、同一の建物内にある場合や、隣接しているケースなどで、サービスの向上や管理の効率化が期待出来る場合には、複数施設を一括して、指定管理者を指定出来るようにしている。黒字施設については、経営努力を害しない範囲で、施設の改修や更新に備えて、利益をストック出来るような仕組みを構築する。

掲載以外の質問項目

- ・ 市民病院の運営効率化
- ・ 災害時における消防団対応



中鉢和三四郎

何とかならないのか  
イノシシ被害対策④

**問** 対策へのICT活用検討状況を伺う。  
**答** 12月上旬、ICT捕獲をなを導入した。今後、研修会を開催し、効率的な捕獲の推進に向け、新技術の実証を進める。

**問** 被害を受ける農家や住民を巻き込んだ対策実施体制構築の進捗状況を伺う。

**答** 地域住民、実施隊及び関係機関と、イノシシの習性や対策について情報共有を図るため、11月26日に、国の農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーを講師にイノシシ被害対策研修会を開催した。今後、地域や関係機関と連携しながら、被害防止体制構築に向け取り組んでいく。

**問** 捕獲後の処分方法として、ジビエ活用にに向けた取り組みの検討状況を伺う。

**答** 出荷制限の解除は難しい状況だが、一部解除や、ジビエ活用策については積極的に研究をしていきたい。

掲載以外の質問項目

- ・ 宿泊税導入の問題点
- ・ 木質バイオマス資源利活用の本音



相澤 孝弘

台風19号災害から  
検討すべき課題

**問** 水害が恒常化すると考え、対策強化を国・県に強く求めるべきと考えますがどうか。

**答** 国・県の管理河川整備計画に基づき整備が進められている。治水安全度を高めるため、早期の整備が急務と認識している。この度の水害について迅速な復旧と2度と同じ災害が発生しないよう原形復旧にとどまらない徹底的な改良復旧が必要であり、国・県に強く要望している。

**問** 水害対応の防災資機材はどの様にストックされているのか伺う。

**答** 市内24箇所の水防倉庫に土嚢袋、ブルーシート、スコップ、杭、救命胴衣などを揃え、災害時に消費した場合は、補充している。

有害鳥獣駆除対策

**問** イノシシ対策の補助拡大と、通年駆除の対応はどうか伺う。

**答** くくり罟の修理助成を始めた。本市では、通年捕獲が可能である。



八木 吉夫

水害対策

**問** 鹿島台志田谷地地区の水害に遭われた方々の生活再建について、集団移転も含めた所見を伺う。

**答** 高台への集団移転を希望する声もあるが、先人達が築いた歴史を否定し、居住に適しない土地にしてしまう集団移転は、市が軽々に提案出来ないものと考え、将来の生活設計に向けて、被災者の皆様と一緒に、志田谷地地区の復興に必要なのか共に考えていく。

**問** 常襲冠水地区の浸水被害をなくすための方策を伺う。

**答** 浸水軽減策としては、堤防の整備や排水機場、ポンプ施設の増強などが必要であるが、完成までには時間を要する事から、流れを阻害した箇所の改修など、雨水対策を進めていく。

**問** 洪水災害時、江合川に隣接する古川市街地の住民の避難場所について伺う。

**答** 古川地域にある一部の小・中・高等学校との間で、建物の2階部分を避難所として使用できる様、調整を行っている。



山田 和明

鹿島台姥ヶ沢地区の水害対策

**問** 姥ヶ沢地区は、台風19号の浸水被害があったため、新たな防災調整池設置、排水ポンプ増設等の事業を市単独でも取り組むことについて所見を伺う。

**答** 国・県の補助事業を活用する事で、より効果的に事業進捗が図られる事から、補助事業の活用を優先し、対象外となる事業は、市単独事業とし、早期の整備に努めていきたい。

**問** 山王江機械排水路を軽減するため、北排水路と西沢排水路の水を東側二線堤バイパス沿いに、用排水路に流入する工事をすべきと考えるが所見を伺う。

**答** 既存農業用水路の活用は、制約があるため、地域の方々や土地改良区とも協議を進め、早期の浸水被害軽減に努める。

**問** 已待田排水路のコンクリートフリームの高さが、姥ヶ沢地区側で不足している問題を解決すべきと考えるがどうか。

**答** 水路の嵩上げも有効な対策の一つと考えている。狭隘な用地のため技術的な課題も含め対策を検討していきたい。



加藤 善市

働き方改革関連法案

**問** 国は働き方改革関連法案で、残業、休暇、均衡均等待遇、臨時職員待遇での一定基準を定めた。本市の対応は。

**答** 働き方改革により時間外勤務は年360時間、月45時間が上限となった。特定職員に業務が偏らない様、業務量の平準化を進め、事務効率化と時間外勤務の縮小を図る。有給休暇は、ワークライフバランスを改善し、健康や自己啓発の促進になるので、年次有給休暇取得推進に努めていく。本市の管理職92名中、女性管理職は14名であり、女性職員を積極的に管理職登用するため、キャリア形成研修会への参加を促す。臨時職員への待遇は、令和2年度から会計年度任用職員制度がスタートする事により、給与や一部有給休暇制度が改善される。

農業振興策

**問** 基幹産業の農業従事者確保策を伺う。  
**答** 農業後継者の確保に向け、就農チャレンジ支援事業などを展開していく。

一般質問（市長に聞きました）



鹿野 良太

多田川・名蓋川・旧渋川の整備

**問** 高倉地区の浸水被害拡大要因として破堤箇所の応急復旧遅れが指摘されているが、渋井川を含め県の対応状況を伺う。

**答** 応急復旧工事は、名蓋川は10/4〜10/7。渋井川の修繕は10/15〜10/20完了。

**問** 飯川上・飯川下行政区を流れる旧渋川にかかる板橋が危険だと指摘されているが本市の所見を伺う。

**答** 板橋は、道路法に基づく橋梁ではないため、社会資本整備交付金事業の対象外でありこれまで点検をしていない。今後、点検から修繕までの財源確保を含め調査研究及び地域の皆様と協議していく。

5G活用及びICT推進

**問** 5Gなどのインフラ整備は大崎市の未来を大きく左右すると考えるが所見を伺う。

**答** 5G基地局の整備状況や「ローカル5G」の制度内容、運用経費や補助事業等の動向を注視しながら、5Gの活用方法や導入コストについても研究していく。

第4回定例会

傍聴者人数 **109人**  
議会中継(LIVE)アクセス件数 **3,760人**

第4回臨時会

傍聴者人数 **4人**  
議会中継(LIVE)アクセス件数 **783人**

議会を傍聴してみませんか!

令和2年第1回定例会は現在開催中で、会期は2月14日から3月6日を予定しています。

※詳しくは、市議会ホームページをご覧ください。  
議会を傍聴すると、どの様な形で大崎市の意思決定がされるのかが分かります。



横山 悦子

台風19号豪雨災害

**問** 台風19号豪雨被害を受け、防災・減災・国土強靱化の対策について伺う。

**答** 国に吉田川上流の遊水地整備、河道掘削及び、堤防の尻補強工事などの対策を求め、国土強靱化のための3カ年緊急対策の実施期間延長を要望する。

**問** 吉田川決壊場所の迅速な周知について伺う。

**答** 防災行政無線やメール配信サービス、市ウェブサイトを初め、更に他の情報伝達手段を検討し、より正確な情報収集と発信に努める。

**問** ハザードマップの全戸配布は。

**答** 現在作成中であり全戸配布する。

**問** 農業機械等の復旧への嵩上げ支援は。

**答** 県は10分の4、市は更にかさ上げ支援の予定である。

**問** 見舞金と義援金の配分状況はどうか。

**答** 義援金については、対象者に申請書を送付し受付を開始している。配分の振り込みについては、日本赤十字社などの義援金と合わせ年内に振込予定である。



早坂 憂

自治体アプリ

**問** 大崎市の様々な情報をより手軽に得られる様、スマートフォンアプリを開発してはどうか。

**答** アプリを活用した情報発信については、開発に係る費用が新たに発生する。加えて、統一した運用方針の構築や人員体制を優先に、コンテンツの充実を図る事が重要になるため、まずは利用者の目線にあるウェブサイトの構築に取り組む。

防災行政無線の活用

**問** 1人暮らしの高齢者世帯へ、希望者に戸別受信機の貸し出しを行えないか。

**答** 防災行政無線については市民皆様から聞こえない、聞き取りにくい等の様々のご意見を頂戴している。本年度は社会福祉施設等の要配慮者利用施設へ、戸別受信機の設置を進めた。今後は高齢者等の情報弱者への対応を視野に入れながら、戸別受信機を有効に活用したい。



佐藤仁一郎

「田んぼダム」による減災への取り組み

**問** 大雨が想定されるとき、水田の排水口を絞り雨水を一時的に田んぼに貯水する事で、下流域の洪水被害を軽減する取り組みを推奨すべきと考えるがどうか。

**答** 豪雨時の急激な増水や、排水機場の運転負荷軽減効果に効果を発揮する。新潟県では先進的に取り組んでおり、国・県にも提言しながら、実用化して制度化を図っていきたい。

高齢者支援策と公共交通事業

**問** 地域内公共交通が実施されていない地域で高齢者などの交通弱者に対し、積極的な支援策を講じていく考えはないか。

**答** 地域要望に応じて導入を検討する方針であるが、運行に際しては、地域住民の理解と利用継続が前提となり、周知に向け努力したい。

掲載以外の質問項目

- ・名蓋川、長堀川の河川整備促進
- ・荒川堰用水路の抜本的改修策
- ・排水ポンプ車の早期出動要請を



氏家 善男

### 義務教育2学期制

**問** 現在、小中学校の義務教育課程では、3学期制をとっている。授業日数の確保やゆとりのある教育環境がとくられるなどの観点から、2学期制に移行、検討する自治体が多くなっているが考えを伺う。

**答** 2学期制について教育課程改善検討委員会を立ち上げ、課題や懸念事項など議論を重ねた。その結果、メリットが大きいと判断し、令和2年度より導入する事に決定した。

### 岩出山小へのスクールバス乗り入れ

**問** 岩出山小学校入り口付近の拡幅工事が終わったが、スクールバスの学校敷地内乗り入れができないか。また、現在の乗降場所へのトイレの設置を考えてはどうか。

**答** 小学校の拡幅工事は、児童の安全確保のため実施した。スクールバスの乗り入れは、今後学校との意見交換をして考える。また、トイレの設置は、周辺で借用した経緯もあり、今後検討していく。

一般質問（市長に聞きました）



佐藤 弘樹

### 災害情報の発信と更新周知の在り方

**問** 令和元年10月に発生した台風19号被害を初め、災害時の情報発信が大きな課題である。災害当初の緊急的な情報伝達のみならず、応急復旧時の対応情報や支援情報をSNSなども活用し経過発信する事は、被災された住民支援や災害ボランティア・支援助資などの協力にも繋がるものと考えが所見を伺う。

**答** 台風接近に伴い、気象庁・国土交通省・宮城県・ダム管理所・消防団・住民からの情報なども常に収集し、早期把握と避難情報の発信に努めた。避難情報については、災害の早期把握と早めの発信を行いながら、被害状況や被災者支援情報も重要な情報である事と認識し、速やかな情報発信に努めていく。

#### 掲載以外の質問項目

- ・ 仮設住宅及び集団移転の考え
- ・ 自宅避難者への支援体制
- ・ 災害ボランティアセンターとの更なる連携・協力体制



鎌内つぎ子

### 台風19号に伴う避難所対応

**問** 古川中心部に大雨が予想された場合、平屋に移住している方は早めに近くの小中学校への避難ができないのか。

**答** 現在、水害時における避難所の拡充を図るために、古川地域にある一部の小・中・高等学校5校との間で、建物の2階部分を避難所として使用できる様に調整を行っている。

**問** 古川の避難所であるfプラザと中央公民館で雨漏りがあるが、その対策を伺う。

**答** 利用者の安全性を第一に考えて、緊急性の高いものから順次修繕を行う。

### 子育てしやすいまちづくり

**問** 認可保育園での食材料費の取り扱いについては、市が責任持つて対応すべきと思うがどうか。

**答** 子育て支援施策の中で検討する。

**問** 保育士を基準以上に配置するための支援策は。

**答** 国の基準を超えた場合に補助する。



佐藤 講英

**災害から市民の命と財産を守る市の対応**

**問** 吉田川が、大郷町粕川地区において、堤防が決壊したとの情報は北上川下流河川事務所から本庁に連絡が入ったのは、13日午前7時50分だ。そこから鹿島台総合支所に連絡が入ったのは同日の午前8時15分であり、既に25分が経過していた。そこから志田谷地地区への避難放送が流れたのは午前8時22分だ。吉田川が決壊してから実に32分の時間が経過している。情報を一刻も早く住民に知らせることは、生命財産を守る上で最優先だ。国・県管理にある河川の初動対応について検証を十分にし、二度とこうした事のないよう本市の対応について伺う。

**答** これまで本市独自の緊急速報メールを配信してきた。一方、国のプッシュ型緊急速報メール配信には、登録していなかった。しかし、今回の決壊場所は本市の上流部に当たり、リアルタイムでの決壊情報の入手が困難であり、流域自治体における広域的な決壊などの水位情報の共有が早期に必要な事から登録を要望した。



山口 壽

**安全で生活環境に配慮した市道整備**

**問** 途切れない市道管理不備による事故に対する今後の対策を伺う。

**答** 道路パトロール時に破損が発見できなかった場合に事故が発生している。今後の対策では、パトロールの在り方や委託先との意見交換などを考えている。

**観光産業に新たな方針はあるのか**

**問** 大崎耕土世界農業遺産をどの様に結び付け観光振興を考えているのか伺う。

**答** 観光施設などの活用として、「道の駅おおさき」を中心に情報発信を進めると共に、各地域資源に案内板を設置する。

また、旧西大崎小学校の廃校活用も含め、体験や食など、地域資源を最大限に活かす事を模索していく。



利活用が検討される旧西大崎小学校



木内 知子

**台風19号被害における諸改善策**

**問** 台風19号による住家の被害認定調査基準は、従来の浸水深によるため実態に合っていない。更に本市の特異的被害実態を示し、判定の見直しに結び付く提言もすべきだがどうか。

**答** 現行制度と被害者の生活再建に向けた気持ちに乖離があることは認識している。国に現場の声が反映される様な制度の見直しを要望していく。また、被害実態等は県・市長会や県幹部との検証の場があるので、そこで論議したい。

**問** 解体しない半壊判定世帯への見舞金3万円の根拠とその増額をすべき。

**答** 本市災害見舞金等支給条例に基づくもので、生活再建のための支援金と異なり、あくまで災害に遭われた世帯への見舞金という性格のため金額は妥当だと考える。

**問** 行政区長から住民への情報伝達の手法と、個人情報守秘義務との兼ね合いは。

**答** 被災者台帳は作成したが、今後、運用体制や取り扱いについて検討していく。

# 各委員会活動報告

平成31年1月から令和2年1月までの、各委員会の活動及び行政視察の主な内容を紹介します。

(○＝委員長、○＝副委員長)

## 総務常任委員会

◎相澤久義 ○富田文志 鹿野良太  
八木吉夫 只野直悦 小沢和悦  
佐藤 勝 【委員数7名】

### 地域の均衡ある発展と教育環境整備

委員長 相澤 久義

本委員会は、公共交通体系の整備推進や、安全・安心のまちづくり、教育行政と公共施設整備について等の9項目を所管事項に掲げ、調査・協議を行ってきました。

特に、平成31年2月に本委員会に付託となった「大崎市都市計画税の不均衡課税の是正を求める請願」については、6回の委員会を開催し、「採択すべきもの」と結論を出しました。審査においては、請願者及び市執行部からの聞き取りを行うと共に、委員だけでも議論を行い、また

都市計画に関する研修会に参加する等して見識を深めながら、慎重な審査を重ねました。本請願は最終的に本会議において「採択」となり、今後も大崎市都市計画税検討会議での検討状況等を注視していき、調査・検証を行い、各地域の発展に繋げていきます。

教育行政については、委員会として高校へのエアコン設置、30人学級実現に向けての意見書をまとめ、議会へ提出しました。

また、学校再編と併せて今後導入が検討されている小中一貫校について、静岡県沼津市に行政視察を行いました。沼津市立静浦小中一貫学校の開校までの流れ、地域の災害時の拠点場所としての機能の整備、学校図書館を中心とした学習環境、9年間の連続性等、沼津市では課題解消にとどまらず、先進的な取り組みを実施しています。先進的な取り組みを、取り入れられる部分は取り入れる様、



小中一貫教育の調査視察 (静岡県沼津市)

執行部に提言を行う等、本市の教育環境整備に活かしていきます。

行政視察 令和2年1月20日～21日

①愛知県豊橋市

「豊橋市結婚支援事業」

②静岡県沼津市

「沼津市小中一貫教育」

開催回数

委員会23回

現地調査1回

## 民生常任委員会

◎後藤錦信 ○佐藤講英 伊勢健一  
中鉢和三郎 鎌内つぎ子 加藤善市  
関 武徳 山田和明 【委員数8名】

### 共生社会の実現を目指して

委員長 後藤 錦信

本委員会は、保健・福祉・子育て・医療分野などを所管しており、民生部と病院事業について、令和元年度に実施した調査活動を報告します。

まず、条例制定に向けて取り組んできた「大崎市障がいのある人のコミュニケーション手段の利用を促進する条例」については、第2回定例会で本委員会が提案し、全会一致で可決されました。今

後はその目的達成のため、鋭意取り組んで参ります。

また、台風19号の接近、上陸に伴う、これまで経験したことのない豪雨によりもたらされた甚大な被害に対し、本委員会としても、現況把握や被災者の皆さんとの話し合いなどを通して、課題や今後に向けた対策を緊急調査致しました。

その結果、被災者生活再建支援金制度の拡充、災害見舞金の引き上げ、災害弱者対策の充実、避難者に寄り添った避難所運営、災害ボランティアの意識醸成などについて提言を致しました。

次に、当委員会に付託されました「介護予防施策のさらなる推進を求める請願」は、5回の委員会を開催し、審査を行うと共に、県内でも先行的に取り組んでいる仙台市の状況を視察するなど、慎重な審査過程を経て、全会一致により本請願を「採択すべきもの」と決定致しました。また、本年度



放課後児童クラブの調査視察（古川南放課後児童クラブ室）

は、議会報告・意見交換会で出た意見などを踏まえ、調査活動や行政視察を通して、放課後児童クラブの現状や、病児・病後児保育等、子育て支援について調査を実施しましたので、引き続き取り組んで参ります。

行政視察 令和2年1月22日～24日

①新潟県見附市

「スマートウェルネスシティ」

「健幸ポイント制度の取り組み」

②富山県黒部市

「病児・病後児保育及び

一時預かりの取り組み」

③長野県千曲市

「病児・病後児保育事業」

開催回数

委員会18回

現地調査5回

## 産業常任委員会

◎佐藤弘樹 ○早坂 憂 山口 壽  
木村和彦 横山悦子 山村康治  
木内知子 【委員数7名】

将来に向けた産業創出を！

委員長 佐藤弘樹

本委員会では産業振興全般を所管し、その内容は、農林業・商工業・観光業・

雇用対策など多岐にわたり、積極的な現地調査や市内各団体と産業分野に係る意見交換会も重ねて開催してきました。

また、世界農業遺産認定に伴う諸事業や道の駅おおさきの運営、小規模企業・中小企業振興基本条例策定による成果、鳥獣被害対策、観光振興対策、企業誘致対策等は継続的な調査活動として取り組み、新たな課題である市有源泉事業の在り方も議論を重ねております。

なお、所管事務調査の一環として、本年度もJA・古川商工会議所・大崎商工会・玉造商工会・大崎市工業会・未来産業創造おおさき・みやぎ大崎観光公社・鳴子温泉郷観光協会・鳴子まちづくり株式会社・鳥獣被害対策実施隊・大崎市シルバー人材センターをはじめとする各団体各位との意見交換等を継続開催し、新たに大崎森林組合・JA青年部・農ドブルプロジェクト・NPO法人しんりん・古川商工会議所青年部皆様との意見交換を行う等、現況を踏まえた産業振興策を図るため、意見・提言聴取や相互理解にも活発に取り組んできました。

さらに、台風19号被害後には三本木・古川・田尻・鹿島台地域での現地被害調査を実施し、早期に企業・営農活動が復



旧・再開できる様に要請活動にも努めながら、継続的に調査を実施しております。今後も、意見交換・調査視察内容を委員会活動に活かしながら、産業全般で着実な活性化が図れる様に施策提案を行う等、産業振興の充実を図って参ります。



市有源泉の現況調査（鳴子温泉地域）

## 建設常任委員会

◎佐藤仁一郎 ○氏家善男 山口文博  
遊佐辰雄 相澤孝弘 水室勝好

【委員数6名】

行政視察 令和2年1月22日～24日  
 ①静岡県伊豆市 「静岡水わさびの伝統栽培と世界農業遺産認定による活用策」  
 ②静岡県熱海市 「温泉観光推進事業」外3件  
 ③東京都台東区 「起業者向け創業支援と運営状況」外2件  
 開催回数 委員会15回 現地調査7回

## 災害復旧と着実な住環境整備

委員長 佐藤 仁一郎

本委員会では、建設部及び水道部の事業を所管し、市民皆様が安心・安全に暮らせる社会基盤の充実に向け、協議・調査を行ってきました。

しかし、平成27年の関東・東北豪雨災害からわずか4年後の、昨年10月に襲来した台風19号の豪雨により、吉田川が決壊し長期間浸水した鹿島台志田谷地地区を初め、市内広範囲にわたり甚大な被害を受けました。本委員会では、建設部と合同で、被災した河川、排水機場、道路などを調査し、応急復旧にとどまらない、改良復旧を国・県に強く求めました。現在、市内建設業組合様などの力強いご協力を賜り、暫定復旧は概ね完了しました。しかし、市民皆様が安心・安全な生活を送れる様、しっかりとした冠水対策を講じる事や、国・県に対し管理河川整備計画の促進と予算の確保も含め、提言を行っております。

市民皆様からの要望やご指摘の多い上下水道事業や、道路、橋梁、排水路などの整備につきましたも、建設部・水道部と現地調査を行い、課題解決に向けしつ

かり取り組む様、協議して参りました。また、利便性の高い都市への再生を目指す、大崎市中心市街地復興まちづくり計画に基づく、市役所周辺区域の市街地再開発事業や、各地域の公営住宅建設事業の進んでおり、整備・進捗状況を、しっかりと確認してきました。

更には、三本木パークゴルフ場につきましては、市民皆さんの健康増進に役立つ施設として、令和2年春のオープンに向け、現在工事が進行しております。



台風19号被害調査視察（三本木地域）

行政視察 令和2年1月20日～22日  
 ①岐阜県各務原市 「景観計画」  
 ②大阪府岸和田市 「上下水道の組織統合」  
 ③兵庫県西宮市 「舗装修繕計画」  
 開催回数 委員会8回 現地調査5回

市役所庁舎建設調査特別委員会

◎関 武徳 ○山田和明 八木吉夫  
 佐藤弘樹 中鉢和二郎 鎌内つぎ子  
 加藤善市 相澤孝弘 後藤錦信  
 山村康治  
 【委員数10名】

市民と行政の協働、交流拠点を目標して

委員長 関 武徳

本委員会では、建設中の田尻総合支所の進捗を見守りながら、鳴子総合支所と本庁舎の建設に向けて、市民に親しまれ利用しやすい庁舎を基本に庁舎施設の機能や利便性、防災拠点、環境への配慮や管理コストの抑制を軸に調査しました。

鳴子総合支所につきましては、いよいよ建設に着手して参りますが、「鳴子らしさ」を前面に、地場産材をふんだんに活用し、優良産材資源をアピールしながら、複合庁舎として、人にやさしい、木のぬくもりが感じ続けられる庁舎であるよう求めて参りました。さらに木質チップボイラー導入の検討も致しました。先進事例として、山形県最上町を訪問し木質バイオマス事業の取り組みと木質チップボイラー導入の実態と効果について調査をしました。こうした経過を踏まえ、コスト

面や、効果を総合的に判断した結果、導入は見送るべきとの結論となり、提言致しました。

本庁舎につきましては、七日町再開発による地域交流センターとの機能分担をはじめ、道の駅おおさき等周辺施設と連動するにぎわいの創出が期待される市民交流エリアの設置意義や市民協働の拠点としての活用策、市民サービスの向上や、執務効率向上への庁内環境等、委員間討議や質疑、検討を重ねてきました。

さらに、参考先進事例として、栃木県大田原市庁舎、埼玉県秩父市庁舎を調査致しました。

次世代に誇れる本庁舎の建設に向けてハード・ソフト両面で、なお調査を重ね、実施設計へ慎重調査が必要と考えます。



完成した田尻総合支所新庁舎

行政視察 令和元年5月23日～24日

①栃木県大田原市

「庁舎建設事業」

②埼玉県秩父市

「庁舎建設事業」

開催回数

委員会10回

現地調査1回

議員定数・報酬等調査検討特別委員会

◎山村康治 ○横山悦子 早坂 憂  
 鹿野良太 山口文博 山口 壽  
 佐藤仁一郎 佐藤弘樹 鎌内つぎ子  
 遊佐辰雄 只野直悦 富田文志  
 氏家善男 佐藤 勝 【委員数14名】

市民の負託に応える議会に向けて

委員長 山村康治

本委員会では、議員の定数・報酬・政務活動費の3点に特化し、市民の信頼と負託に応えられる議会を目指し調査検討してきました。市長と議会は二元代表制として、機能強化し、市政への監視・政策立案・市民参加（民意反映）の役割を担うべき議員数、旧古川市時代から20年以上見直しされていない報酬、県内でも最低レベルの政務活動費を議員自ら一か

ら議論しております。特に、報酬は議員の公務の活動がどれくらいあるのかを明確にすべく、年間活動量を議員個人ごとに毎日記載しており、3月まで記録する予定で、それを基に適正な報酬を見出したいと考えております。

また、先進地視察として、議会改革で全国的にも有名な福島県会津若松市と栃木県那須塩原市を調査しました。議会として市民のために何が出来るのか。どのような活動が必要なのか。地域の課題にどう取り組んでいくのか。そういった事を市民目線で

取り組んでいき、理解してもらおう「見える化」をすべく、その上で議員定数や報酬等の議論を市民と深めるべきと、というのが印象的でした。いずれ、議員の数や



議員報酬等の調査視察（福島県会津若松市）

報酬等は市民の皆さんと議論しながら、身近な議会、市民に開かれた議会を目指していきたいと思います。市民から「ありがとう議会」と言ってもらえる様に、今後も活動して参ります。

行政視察 令和元年10月9日～10日  
福島県会津若松市

「議員報酬等を考える視点・

市民への議会活動の説明」

栃木県那須塩原市

「議員報酬等を考える視点・

市民への議会活動の説明」

開催回数

委員会10回

### 全国の議会より

災害支援金を頂きました。

ありがとうございます。

東京都台東区議会・北海道当別町議会  
愛媛県宇和島市議会・山形県酒田市議会  
北海道清里町議会・島根県奥出雲町議会  
大分県竹田市議会・山形県小国町議会

(敬称略・令和元年12月末現在)

## 議員研修会開催

本市議会は、昨年6月の定例会において「大崎市障がいのある人のコミュニケーション手段の利用を促進する条例」が制定されたことに伴い、障がいのある人のコミュニケーションについて深く学ぶため、1月14日に議員研修会を開催いたしました。

研修会は、県聴覚障害者情報センターの松本隆一施設長より講演を頂き、その後、市ボランティア連絡協議会の會田征子会長や佐々木崇さん、けい子さん夫妻から、手話を学びました。



研修会において手話を学ぶ様子

# 高校生の皆さんと「大崎市の魅力を高める地域活性化」をテーマに意見交換を行いました!



古川高等学校

子育て支援について



岩出山高等学校

道の駅おおさきについて



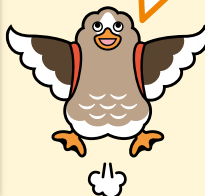
古川黎明高等学校

ICTの活用について



鹿島台商業高等学校

公共交通整備について



田尻さくら高等学校

## 編集を終えて

もうすぐ、今年度も終了しますが、今年の冬は、かつてないほどの暖冬で雪が少なく、春先の水不足が心配されます。

議会では、台風19号の大災害により、緊急質問をはじめ、多くの議員が取り上げ、災害対応と復旧・復興を質しました。

最近、地球規模で異常気象が発生し、世界各地で大きな災害が起きています。地球温暖化の影響と思われませんが、早急な対策が望まれます。

スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリさん（17才）が、昨年9月、国連気候行動サミットに出席し、地球温暖化に本気で取り組んでいない大人たちを叱責しました。グレタさんは、涙を浮かべながら約5分間、世界のリーダーを前にしてのスピーチはまさに圧巻でした。地球温暖化にブレーキをかけていこうではありませんか。遊佐 辰雄

### ◆情報化対策特別委員会◆

- 委員長 八木 吉夫
- 副委員長 鹿野 良太
- 委員 伊勢 健一
- 山口 壽
- 中鉢和二郎

- 山口 文博
- 佐藤 弘樹
- 遊佐 辰雄